

アスピリンの使用でコロナ患者の人工呼吸器装着率が低下

新型コロナウイルス感染症の患者は血液の凝固能が亢進し、重症の場合には血栓リスクが高くなる。そこで本研究では、アスピリンの使用により新型コロナ感染症患者の人工呼吸器装着や集中治療室（ICU）への入室、院内死亡のリスクが減少するかについて多施設コホート研究を実施し検討した。

2020年3月から7月に医療施設に入院した新型コロナウイルス感染症患者412例を対象とした。そのうち314例（76.3%）はアスピリンを服用していなかったが、98例（23.7%）は入院後24時間以内、または入院前7日以内にアスピリンを服用していた。8つの交絡因子を調整して解析した結果、アスピリンを服用していなかった群と比べ、服用していた群では人工呼吸器装着およびICU入室、院内死亡のリスクがいずれも有意に低下した（調整ハザード比はそれぞれ0.56 [P=0.007]、0.57 [P=0.005]、0.53 [P=0.02]）。

したがって、アスピリンの使用により新型コロナウイルス感染症患者の人工呼吸器装着、ICU入室、院内死亡のリスクが有意に低下する可能性が示唆された。

出典：Anesthesia and Analgesia. 2021 Apr 1; 132(4): 930-941.